

# 柏市逆井地区における不法投棄の現状

## The present conditions of illegal dumping in Sakasai district, Kashiwa city

地誌学分野 星 政臣 (Hoshi Masaomi)

### (1) 研究目的

本研究では市街化区域と市街化調整区域の両方が存在する柏市逆井地区において、それぞれの地域のこういった土地利用の下で不法投棄が行われやすいのかを検討することを目的とする。

### (2) 研究方法

市街化区域と市街化調整区域、それぞれで道路周辺の土地利用とゴミ量の関係性を考えるとともに、市街化区域と市街化調整区域における違いを検討する。

### (3) 使用データおよび手順

1) 現地調査によって、ゴミの場所と種類、量について GPS 端末を用いて収得した。同時に道路周辺の土地利用調査も行った。これらをもとに土地利用図を作成し、ArcGIS の「フィールド演算の高度な設定」を利用して各区画の面積を導出した。

2) 土地利用データにゴミデータを「空間結合」させ、それらを市街化区域と市街化調整区域とに分割し、土地利用別のゴミ密度を求めた。

### (4) 結果・考察

市街化区域においては、畑や公共用地、平地林・荒地において不法投棄がなされ、ゴミが放置されやすい傾向にあると考えられる。

市街化調整区域においては果樹園・樹木畑や資材置場、河川・用水路、平地林・荒地において不法投棄がなされ、ゴミが放置されやすい傾向にあると考えられる。

また、図2と図3の比較から、市街化調整区域の方が市街化区域より不法投棄がなされ、ゴミが放置されやすい傾向にあると考えられる。これは市街化調整区域の方が人口密度が低く人の目が少ないため不法投棄を抑制する効果が低いこと、ゴミ拾い活動による効果が薄いことが挙げられると考えられる。

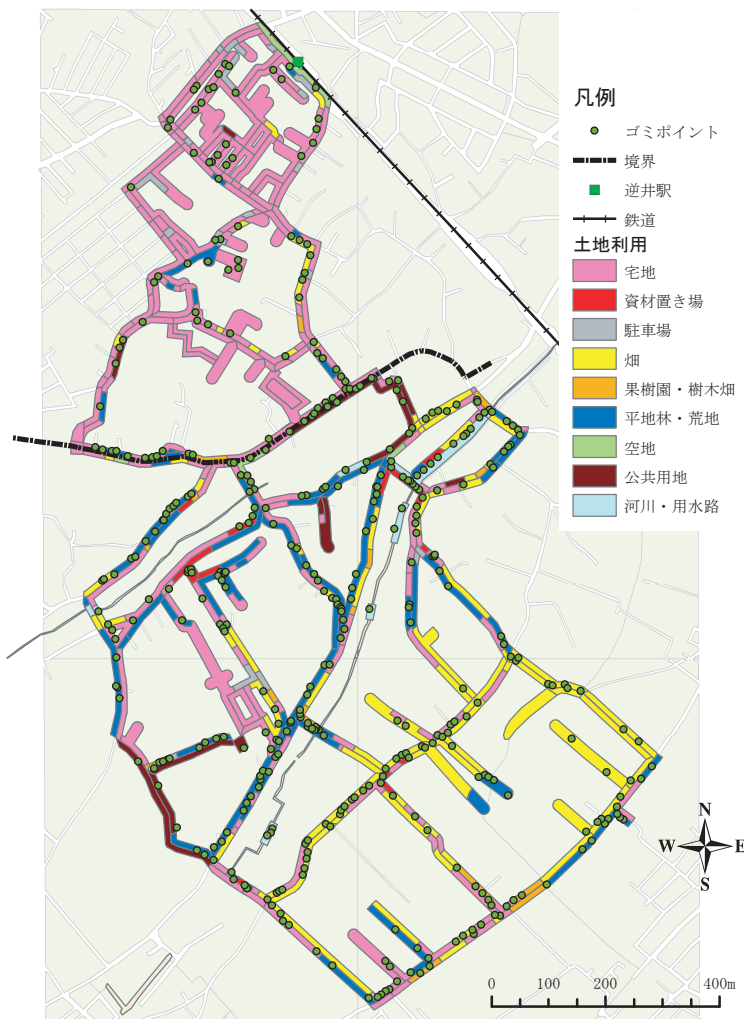


図1：逆井地区における土地利用とゴミポイント

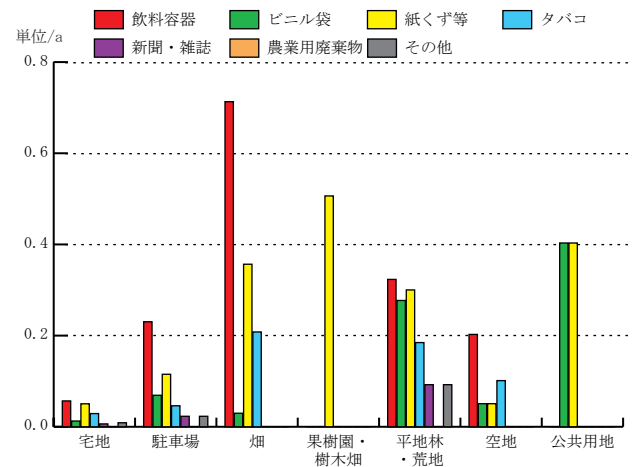


図2 市街化区域における土地利用別ゴミ密度

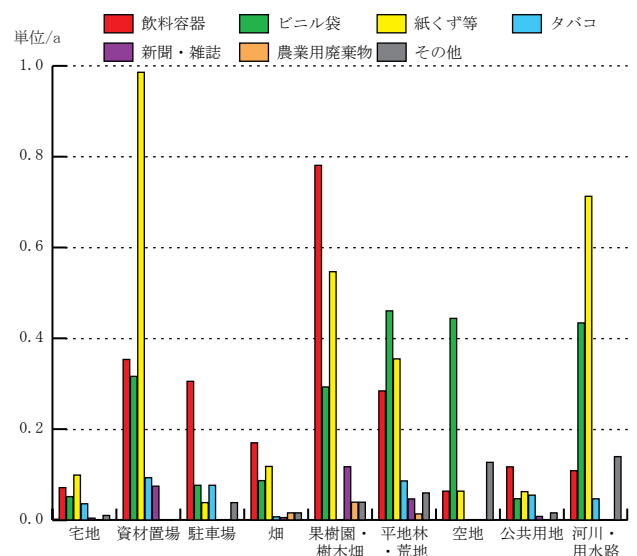


図3 市街化調整区域における土地利用別ゴミ密度